

よから、保育的に取扱かつて行きたいのである、即ち小供の身体の發達に留意して、悪い習慣のつかない様に、よく遊ばせることを主として、物を作らせたいのであります、

世話女房の覺悟

へ頁人の収入は二十圓平均

高等女學校の卒業生達は、お嫁に行くからには、赤ん坊をおん貢してお米を磨ぐと云ふ覺悟を有つて居らねばなりませぬ、何故かといへば其の婿様になるべき人は、年齢からいへば廿五歳乃至三十歳位、又職業からいへば官吏更ならば下級の判任官、軍人ならば尉官實業家ならば手代位のもので、ヤツと職業に就いたばかりのが多く、其収入は大學卒業生でも高等商工業卒業生でも士官學校卒業生でも、先づ二十圓位の所が普通でもあるからです、これだけの収入で如何して立派な生活を営むことが出来ませうか今日高等女學校の生徒達が現に住まつて居る家は既に成功して居り、又は半ば上進して居らるゝ父や兄の家であつて、何事も十分にして居る所から、解怠を生じて、己れも直にお母様やお姉様のやうな身分になりたいと云ふ様な希望を起しませうけれども、是は自己の身上に就てよく考へなければなりません。(なでしこ)

幼兒の遊戯は如何に指導すべきか(承前)

後藤ちとせ

指導遊戯

指導遊戯は談話、唱歌手技と共に保育事項中の一大要素で御座いますから其保育上の効果も心身發達兩方面に向つて大なる事は申す迄ありませんまづ身体上には血液の循環をよくし、呼吸作用を活潑にし、營養皮膚、神經の諸系統の機能をすめ、姿勢を正しく動作を輕快にし以て身体各の均一圓滿なる發達に資すると共に精神上には感官を練習し五官のはたらきを鋭敏にし注意力想像力を養ひ判斷力を練習する等心的活動を助長し更に道徳上には規律服従敏活の良性を養ひ清廉潔白衆と共に樂むの美性を養ふ等がまづ其の主要なるものです。但し例の保育者の技量如何により此の効果にも差違を生ずる事ですから如何にせば是等の價値を遺憾なく收め得らるべきか、追次御話したい

しませう。

女子高等師範學校の遊戯室は幼児百二十名ありま
すのに室の廣さが五間に八間即ち三十五坪で平素
教生の參らぬ折は別段狭くはありませんが室内運
動會(後に説く)其他の催しをやりて母親達を招く
とか或は教生が數多く參りますと今少し廣ければ
と思はれます。普通は百名に對し五十坪位が丁度
宜しう御座いませう。併し師範學校或は保姆實習
生の練習をも兼ねて居る幼稚園では今少し廣くせ
ねばなりません。組が幾つに別れて居ましても
毎朝各組此室に集り大きいのも小さい子も皆とも
く顔見合せてのどかなる朝のうたを歌ひ今日
一日の樂しさを豫想して、こゝに保育を始めます
如何に樂しいことで御座りませう。又各組別々に
遊戯時間には廣き此室で活潑に自由に運動が出来
雨天の日には自由遊ひの場所として驅けまはらせ
五節句三大節フレールの誕生日長休みの前後等
には各組一同こゝに集ひ此度は一の組か次には二
組かと云ふ様に代るゝ主人役となつて何かの催
しをなし他の組をお客に呼んで面白く一二時間

を過すことは幼児にとつてどんなに樂しみなとで
しやう。女高師の附屬幼稚園では近頃此種の幼兒
會合が盛んになつて來まして三月三日五月五日等
には遊戯室の正面に雛人形武者人形等を飾り何時
も一の組が主人になつて他組をよび盛んに唱歌し
遊戯しさては餘興等平日致して居る凡ての保育事
項を應用して趣味ある遊ひを致します。此種の遊
ひは遊園に於けるりよも室内で致す方が家庭的で
且つ面白味の深いことです。から成る可く遊戯室は
廣いのを望みます。

斯く遊戯室は色々に使はれますので保育中最も樂
しい場所ですから幼兒數に相應した廣さを有し高
さ長さの釣合を取り長方形に作り(但し長方形と
申して横縦の割合がありませうが樂器を置く場所
を縦にとつて残りが正方形位にするのが見よい様
で御座います、光線の射入を適度にし空氣の流通
をよくし冬分は安全なる暖室法で普通の室よりは
稍低目に暖めかくが宜しう御座います。是れは遊
戯の際にはふだんよりも身体が暑くなつて居ります
し又多數集る折は自然室が暖くなるからで御座



います。室内には運動の妨害になる物、例へば角のあるものとか倒れ易きもの等を置かず掃除は十分に行届かせ殊に床板は奇麗に拭はせて置いて幼児等が散々駆けまはつても塵埃の立たぬ様にして置く可きです。周囲の壁には花鳥風月或は愛らしい小兒の繪や昔話の繪畫等幼児等が之を見て不識智を研ぎ徳を養ふ類のものを掛け自然界のもの等は四季折々に掛けらるるが宜しくフレール先生の肖像畫是れも一枚正面に保育者の手づからものした押花、小兒の持つて來た草花等も飾り付け美的に裝飾されてあるのが宜しう御座います。遊戯室の床上には必ず或圓は方形の線をひき、未だ行進に巧みならざる幼兒等をして其線をたよりに歩行の練習をさせるが宜しう御座います。普通の線の引き方は次の様なが多く御座います。但し圓形ばかりでは直線行進の練習を欠きますから其邊をも考へる必要がありす。右は經費が充分にあつた場合の話ですが、若し左様參らぬ地方では小學校の昇降室と雨中体操場とをかねた様に並用するもよろしかる可く玩具室と

標本室を特別に設け得ぬ所では遊戯室の裝飾を兼ねて是等の玩具標本等をうつくしう整頓し硝子の戸棚等に藏めなどして室のまはりに備ふるもよろしう御座います。

遊戯の教へ方

一新しい遊戯を教へる場合
 小學校教授に於て豫備が提示に先立つ様に幼稚園遊戯に於ても新材料はなる可く豫備的遊戯をさせた後にやらせるが宜しく豫備になるものが例令な場合でも入室後直ちに新材料の提出に掛るのは未だ子供が外遊の名残に動きつゝあつて注意が一點に集まつて居らぬ故新材料收得上に不利ですから新材料は必ず何かで幼兒の心を「遊戯をするのだ」といふ氣にならしてから説明し始むるがよろしう御座います併し此際豫備遊戯があまり長すぎると子供の方が疲れた頃に新材料が來る様になりすから其邊は適當な注意が入ります。

二材料の長さもの
 材料の長さものならば數段に分ち其時間に幼兒等が十分了解し收得し得可き丈を確實に收得せしむ

可く多量の材料をばんやり教へ込むのは却つて不得策です。

三 複雑なる遊戯

複雑なる遊戯を教へんとする時に之を幾通りにも分ちて其部分を十分に教へ込んだ後之をひらきまめて完全な形に移すのが宜しう御座いませう。

四 新遊戯を教ふる際の説明の仕方

説明の仕方はなる可く具體的に致した方が幼児に尙了解し易う御座いますから言葉で以て細かに話し聞かせるよりは形即ち其遊戯の模範によりて示す方が早わかりで御座います。一例を上ぐれば兩腕を肩と水平に左右に延ばせ様と云ふ場合に保育者先づ兩腕を正しく左右に伸して見せ「斯うな

さい」と云ふ方がくたくしき言葉の説明に勝る様な類です。説明に用ふる言語は簡單にして順序だち要點を明かに話して幼児をして了解に苦しめぬ様注意す可きこと

五 反復すること

新材料のみ幾回となく繰り返し其練習を終らんとするには一事に疲れ易い幼児にとり苦勞多くして

効少き事ですから適宜已知の遊戯をとり混ぜて一回の遊戯時間を充さなければなりません。

一回の遊戯時間に於ける遊戯排列法

一 緩より急に、急より緩にをはる様排列すること
二 一回の遊戯時間は幼児の年齢、新教授と復習との割合等に因りて短かきは十五分より長きは三十分位の間に於て適宜定む可きこと、

三 變化の附け方を工夫すること

四 一遊戯より他遊戯にうつる具合を滑かにする
五 一遊戯の繼續時間は幼児の興味の度合に因りて斟酌するを

六 一回の遊戯中には身體の各部均一に運動せしむる様排列す可きこと

遊戯訂正法につきての注意

何時も無意味に同じ遊戯を繰返させられるよりは相當な訂正を加へられて昨日よりは今日、今日よりは明日と漸次に進歩して行く方が遙かに愉快である事は子供も大人も同じ事です。で幼児等に對しても正誤訂正を施して其進歩を計ることは新授と同様に大切なことで訂正がなければ進歩がない

と申しても宜しい程で御座いますから是に關して注意條項を少し許り御話致しませう。

一、子供は訂正するものを喜ぶものです。

凡て子供の遊戯を訂正してやりますときには心持よき言葉を以て親切に其誤れるを話してやる可きです。もし小言がましく申しますと幼児には誹責する様にとれて遊戯は忽ち仕事となり課業となつて幼稚園遊戯の本旨たる愉快に遊ばせるといふ心を缺く事になります。

二訂正の語は賞賛の辭と並び發するをよしとす。誰れでも賞められるのは嬉しくて其言葉にはげまされり下手なりと云はるゝ時は落膽失望しかちなもの子供は殊にさうで御座います、で訂正の際には同時によき點を賞めて此處は大層よくなつたから今少し此點をおなほしなさいといふが宜しう御座います。

三、同一の誤りが數多く繰り返さない中に早く訂正するが宜しう御座います。悪い僻がついて後はなかく正しきに移りたいものであります。四口で訂正した許りで其實地をなほさず、明日か

ら、かうしませうなどいふ訂正法は幼児には殆んど無効で御座います。幼児は凡て其時きりて前時に云はれたことを次ぎの遊戯の時間まで覚えて居つて獨りでなほすといふことは到底出来ぬとですから訂正の語を發したら必ず之に伴ふ實習をやらせて身体によい習慣をつけておくのが要用です。

五訂正が必要であると同時に、いつも陥り易い誤は其遊戯をなすに當り豫め注意してやつて其誤を未然に防ぐ工夫をもしなければなりません(續く)

●吾人が体量の變更

或る人は時々体量器械にて其体量を秤つて數ヶ月前の体量に比べて多少の減量を見るが、全體吾々の健康に異状が生じたのだと心配するが、全體吾々の健康は刻々に變はつて居るもので、飲食したる時の外は、吾人は常に多少は減量して居るのである。而して其の増減は略一定して居る、即ち飲食の時、増し運動後發汗後は減量する、米國人某自身の科學的試驗に依ると、朝餐前には氏の体量は百五十磅、晝時であつたが、朝餐後には一磅十二分を増し、晝時其から漸々減量し始め、午後五時頃に正餐を食し、其の減量となる、夜中睡眠中には吾人の体量は著しく減少するので、大體平均三磅六分位である、又精神的及び肉体的勞動が吾人の体量を減することは少